

教育研究業績書

2021年10月29日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：小笠原 史士

研究分野	研究内容のキーワード	
小児看護学	思春期, 小児がん, エンドオブライフケア, 意思決定	
学位	最終学歴	
修士（看護）	三重県立看護大学大学院看護学研究科修士課程	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 視聴覚教材を用いた学習	2021年5月	武庫川女子大学看護学部実習科目「小児看護学実習」（専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位）で実施した。コロナ渦の影響により臨地での実習が不可能になったことから、Google Meetを用いた遠隔実習を行うこととした。プリパレーションの学習については、インターネット上で公開されている動画等を画面共有機能を使用して見せ、内容や方法についての復習を行った。フィジカルアセスメントに関しては、DVD教材を画面共有機能を使用して見せ、復習を行った。看護過程の事例に関しては、紙ベースでの事例の配信前に、DVD教材を見せ、学生が子どもの発達段階を理解しやすいように工夫した。
2. Google Classroomを用いた連絡や課題提出	2021年5月	武庫川女子大学看護学部実習科目「小児看護学実習」（専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位）で実施した。コロナ渦の影響により臨地での実習が不可能になったことから、Google Classroomを開設し、その中で連絡事項や患者事例、実習記録（Googleドキュメント）を配信し、学生は期日までに記録を提出することとした。学生はパソコン、スマホ、タブレットなど様々なデバイスを使用していたため、実習記録の提出は配信したドキュメントと、配布済みの紙ベースの記録の画像のどちらでも可能とし、学生が課題に取り組みやすいように留意した。Google Classroomを使用することで、遠隔でもすぐに教員が実習記録を見ることができ、リアルタイムな看護過程の指導ができた。
3. 小児病棟を再現した部屋でのシミュレーションの実施	2021年5月	武庫川女子大学看護学部実習科目「小児看護学実習」（専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位）で実施した。コロナ渦の影響により臨地での実習が不可能になったことから、Google Meetを用いて、シミュレーション実習を行うこととした。学生が小児病棟の病室を想起しやすいように、看護科学館母性・小児実習室内に模擬病室を再現した。学生がGoogle Meet上で患者の療養環境及び行動・表情がよく見えるよう、患者・家族役の教員はカメラ位置を調整した。本取り組みで学生は遠隔でも患者の言動および療養環境を観察することができ、患者の状態に合わせた個別性の高い看護計画の立案。実施、評価をすることができた。
4. Google Meetを使用した学生と教員の双方向型の実習	2021年5月2021年6月	武庫川女子大学看護学部実習科目「小児看護学実習」（専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位）で実施した。コロナ渦の影響により臨地での実習が不可能になったことから、Google Meetを用いて、シミュレーション実習を行うこととした。1グループにつき、助教2名体制で実習を行い、事例の看護展開のいは、教員・医療スタッフ役と、患者・家族役に役割分担をした。実習開始までに、履修登録をしている学生をグループの指導用、個人指導用、病室用のGoogle Meetに招待し、ナースステーションと病室を想定した遠隔実習を行った。学生それぞれに事例を割り当て、学生は看護計画を立案し、教員役の教員から指導を受け、患

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		者役の教員を相手に看護援助を実施した。本取り組みを行った学生の実習の学びは、臨地実習に行った学生の実習の学びと同じ内容が挙げられており、遠隔においても質を担保した実習を行うことができた。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 三重県立看護大学大学ティーチングアシスタント	2019年5月2020年1月	ティーチングアシスタントとして三重県立看護大学4年生へ実習指導を行った
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 看護師	2010年3月～現在	
2. 保健師	2010年3月～現在	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 小児がんで入院中の思春期の子どものエンドオブライフケアに携わる看護師のケアにおける困難感の構造	単	2021年3月	三重県立看護大学大学院看護学研究科修士論文	本研究は、思春期の小児がんの子どものエンドオブライフケアに携わる看護師の困難感の構造を明らかにすることを目的とした。日本小児がん研究グループ病院の看護師を対象に、自作した小児のエンドオブライフケアの困難感に関する質問44項目の質問紙調査を実施し、探索的因子分析により、困難感の構造を表した。
3 学術論文				
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 看護師からみた小児病棟におけるホスピタルクラウンの可能性と今後の課題”	共	2011年12月	第31回日本看護科学学会学術集会（高知市）	”ホスピタルクラウンが活動している小児病棟の看護師を対象に質問紙調査を行い、ホスピタルクラウンの活動の可能性と課題を明らかにした。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 共著者名：小笠原史士，小池敦，前田貴彦”
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項